

Lesson

# 2 門扉の配置を考えましょう。

## 敷地の条件や動線に沿って計画を

門の配置は「平行・斜め・直角」の3パターンが基本です。いずれもアプローチの取り方で視線をコントロールしたり、車庫や庭への動線も考えてプランします。また道路と敷地の高低差や、隣接する車庫のレイアウトもあわせて考えましょう。

### ■「門扉の配置とアプローチ」

<p><b>A</b></p> <p>道路と敷地に高低差がない場合</p>	<p><b>A-1</b></p> <p>最も多い平行配置。門扉はできるだけセットバックし、門袖の左右にはメリハリを。玄関と一直線になる場合、アプローチを曲げたり視線をさえぎる工夫を。</p>	<p><b>A-2</b></p> <p>斜め配置はアプローチに視線の変化を楽しめます。三角形のスペースは砂利や植栽で演出。門袖を少し折り曲げ、門扉と平行にするとよく納まります。</p>	<p><b>A-3</b></p> <p>奥行きがとれない場合や横にアプローチが来る場合は直角配置を。門扉が隠れて奥ゆかしい感じに。正面の壁面が大きく見えるので、壁飾りや植物で楽しく。</p>
	<p><b>B-1</b></p> <p>平行配置で500~600mm程度の高低差なら、門扉の前に階段を持って行く方が連続する場との納まりがよい。奥行きがあまりとれない場合にも適しています。</p>	<p><b>B-2</b></p> <p>車庫が隣接する場合、車庫との動線も考えて横方向に階段を取るとスムーズ。車庫前に門扉を設けたいなら、片開き扉と組み合わせるとスペースが有効に。</p>	<p><b>B-3</b></p> <p>車椅子用のスロープを併設したプラン。限られたスペースに設置するのは難しいですが、スロープを横方向に取って距離を稼ぎます。手すりの設置も必要。※</p>
	<p><b>C-1</b></p> <p>かなり高低差がある場合、階段は門の内側に設置するのが一般的。階段はできるだけ一直線にならないように曲げたりアールに、蹴上げも低めに設計します。</p>	<p><b>C-2</b></p> <p>2m以上高低差がある場合は、車庫を地下にして敷地を有効活用。車庫と門は隣接させ、門扉は道路沿いに設置。階段は途中で休める踊り場を設けてください。</p>	<p><b>C-3</b></p> <p>地下車庫にしない場合でも車庫と門は隣接させ、階段は内側に。門は2段ほど上がってから設置すると圧迫感がなくなります。車庫からのアクセスも考えて。</p>

※車椅子利用のスロープの勾配は、法的に屋内で1/12以下、屋外で1/20以下。高低差50cm以下なら緩和がありますが、例えば60cmの高低差があると、1/12でも7.2mの距離が必要です。

10325

### A-3 門扉を直角にしたもので視線が入らず落ち着きます

玄関がまる見えにならないように手前に塀を立て、門扉を直角に配置。中央に空間をとって樹木や緑を植え、奥行きを感じさせるとともに、フォーカルポイント（見せ場）として道路から見たときに爽やかでおしゃれな印象に。



(I様邸)



### B-1 やや奥まった感じに設置 自転車用のスロープも併設

平行位置の門。ステップとスロープを併設し、奥まった感じに設置したので落ち着きます。天然石の床やポストなど要所に黒をきかせ、白でまとめた外観のアクセントに。スロープは子どもたちの自転車用に重宝しています。



(H様邸)

### C-3 階段を上りながら角の樹木や緑を楽しんで

高低差のある家。門とカースペースは隣接。門から玄関までのアプローチは、床に天然石、壁にムク材があしらわれ、豊かな気分です。ステップは数段ごとに折れ曲がり、コーナーの樹木や花壇を楽しみながら玄関へ。



(K様邸)